

会 議 記 録 (要 旨)

会 議 名	杉並区青少年問題協議会		
年 度	平成 27 年度	開 催 回	第 1 回
日 時	平成 27 年 8 月 6 日 (木) 午後 1 時 30 分～3 時 40 分		
場 所	杉並区役所中棟 5 階 第 3・4 委員会室		
出 席 者	委員名	阿部委員、亀田委員、神田委員、龍前委員、田中委員、唐澤委員、渡邊委員、吉田委員、大竹委員、田谷委員、松野委員、伴野委員、高橋委員	
	事務局	子ども家庭担当部長、区民生活部長、教育委員会事務局次長、子育て支援課長、子ども家庭支援担当課長、保健福祉部管理課長、児童青少年課長、地域課長、生涯学習推進課長、スポーツ振興課長、子どもの居場所づくり担当課長、済美教育センター統括指導主事	
傍 聴 者	0 名		
配 付 資 料	杉並区青少年問題協議会委員名簿・幹事名簿 座席表 冊子「杉並区保健福祉計画（平成 27 年度～31 年度）」 資料 1 次世代育成基金について 資料 2 子どもプレーパーク事業の実施について 資料 3 平成 27 年度小学生の放課後等居場所事業のモデル実施について 資料 4 杉並区いじめ防止対策推進基本方針（素案）		
会 議 次 第	1 開会 2 議題 (1)「杉並区保健福祉計画（平成 27 年度～31 年度）」（平成 27 年 3 月策定）について (2) 杉並区総合計画・実行計画（青少年育成に関する施策・事業）の進捗状況等について (3)「杉並区いじめ防止対策推進基本方針（素案）」について		
会議内容（要旨）			
児童青少年課長	1 開会 (会長挨拶) (委員及び幹事自己紹介) 2 議題 〔(1)「杉並区保健福祉計画(平成 27 年度～31 年度)」(平成 27 年 3 月策定)について (冊子「杉並区保健福祉計画（平成 27 年度～31 年度）」について説明) (質疑・意見等なし)		
児童青少年課長	〔(2) 杉並区総合計画・実行計画（青少年育成に関する施策・事業）の進捗状況等について (「資料 1 次世代育成基金について」、「資料 2 子どもプレーパーク事業の実施について」説明)		
子どもの居場所づくり担当課長	〔(資料 3 平成 27 年度小学生の放課後等居場所事業のモデル実施について」説明)		

委員	<p>(質疑・意見等)</p> <p>○次世代育成基金について</p> <p>次世代育成基金の目的に自然・文化・芸術・スポーツなどの様々な分野における体験・交流事業とあるが、26年度と27年度のプログラムを見ると、偏りがあるように思う。今後の事業展開についてどのように考えているのか。</p>
児童青少年課長	<p>委員のご指摘のとおり、自然体験や異文化体験も含め、海外や東京から離れた場所にいくものが主体となっている。今回、スポーツということで、オリンピック開催に向けて、トップアスリートの方々の講演、大会運営を支えている方々の話を聞く取り組みなどを行い、スポーツを下支えしたり、トップアスリートとつながったりするための取り組みを加えたところである。これから先、芸術や文化についても当然ながら検討していかなければならない。可能な限り事業の拡大を検討していきたい。</p>
委員	<p>民間からの公募提案については、自然体験しか提案がなかったのか。</p>
児童青少年課長	<p>応募のあった事業の中には、キャリア教育的なものや異年齢交流を通じた学習支援といったものもあった。今回提案のあった事業の中では準備期間や人が集まるのかといった課題、区が実施する事業との関係などから、より実現性が高いものということで選定した。</p>
委員	<p>この事業がいかに有効であったかということを検証し、公表することが必要だと思う。</p>
委員	<p>次世代育成基金活用事業の事業費はどのくらいか。</p>
児童青少年課長	<p>26年度で1,300万ほどである。</p>
委員	<p>応募倍率はどのくらいか。</p>
児童青少年課長	<p>学校推薦の場合もあるが、公募の場合は約4倍である。</p>
委員	<p>参加した児童・生徒がその後、どのような変化があったのかというところまで検証しているのか。参加した児童・生徒の意見・体験談を次世代に伝えるなどの取り組みはしているのか。</p>
児童青少年課長	<p>各事業において報告書を作成し、参加した児童・生徒の感想や今後何に活かしていきたいかなどを集約している。報告書を踏まえて、次はどのようにやっていくかということを検討している。</p> <p>また、翌年度の説明会において、実際に活動してみて自分はどのようなことができたのか、これから何を目標したいのかを発表する場も設けている。</p> <p>基金を活用する以前から行っている事業では、参加した子ども達が、今度は学生ボランティアとして参加している。自分が体験したことを伝えながら、子ども達のリーダーとしての役割を担い、次に伝えていくということも行われている。時間の経過とともに次の世代へつなげていこうという思いが参加した子ども達の中からも出てくると思う。</p> <p>海外留学などの取組では、事前に目標を設定した上で参加するとともに、様々な体験で学んだことを各学校でフィードバックする取組を行っている。</p> <p>今後も、「次につなぐ」、「体験したことを周りに伝える」といった取組を行っていく。</p>

委員	そのような取組を行っていることをあまり外の人は知らないのではないか。こういった取組が伝われば、更なる寄附が増えてくるとともに、寄附とは違った形での支援にもつながっていくと思う。
委員	応募状況が約4倍ということだが、何に留意して抽選しているのか。何か基準はあるのか。
児童青少年課長	特定の学年・性別に偏ることのないように配慮している。また、応募にあたり、事前の学習も含め全てのプログラムに参加できることを条件としている。
委員	参加費用は。
児童青少年課長	基金を活用するにあたり、家庭の経済状態などに左右されずに参加機会を公平に与えることを考え、区の事業については参加費が発生しないようにしている。民間が行う事業については、最低限の参加費としている。
委員	学校推薦はどのように行われるのか。
委員	全ての子ども達にプリントが配られる。応募する場合は、自分の志望動機を書くこととなっているので、希望する子はそれなりの意欲を持っている。前任校では1人か2人ぐらいの応募状況であった。
委員	○子どもプレーパーク事業の実施について 出前プレーパークの実施場所が児童館や地域イベントとあるが、これはプレーパーク事業の方が交渉して出前させてもらうのか、それとも地域からの依頼があったものに対応するのか。
児童青少年課長	どちらの場合もある。外遊びが中心なので、児童館で実施する場合は庭のある児童館を想定している。
委員	区立公園内でプレーパーク事業を行う場合には、公園の許可申請は誰がするのか。
児童青少年課長	公園の許可申請は区で行う。ただし、公園の大きさや近隣との関係など、様々な課題が考えられるので、実施にあたっては、協議・相談させてもらう。
委員	青少年育成委員会でも野外活動を行っているが、プレーパーク事業の方との連携は可能か。
児童青少年課長	プレーリーダーとの連携は、スケジュールが合えば可能である。青少年育成委員会の野外活動において、プレーリーダーが持っているノウハウを伝授できるのはよいことだと思う。今後行うプレーリーダー養成講座にも参加いただければ、ノウハウを伝えていけると思う。
委員	プレーリーダーの養成は30歳以下とあるが、多少緩やかになるのか。
児童青少年課長	体力的な面と次世代のプレーリーダーということで、年齢を設定しているが、緩やかに考えている。
委員	プレーパーク事業について、応募があった1団体のほかに手を挙げる団体はなかったのか。

児童青少年課長	応募があったのは1団体のみである。活動している区内の団体としては、協働の相手方であるNPO法人杉並冒険あそびの会と、連携している団体の杉並ねっこわーくの2団体である。この2団体が連携して行う事業と協働していく取り組みである。
委員	プレーパーク事業の安定的・継続的な実施に必要な指導員等の人材発掘と育成には協働推進課の地域大学との連携という話も出ていたが、現在どのような状況になっているのか。
児童青少年課長	今年度は、協働事業の中で養成講座を実施していく。協働推進課とは地域大学などを活用したプレーリーダーの育成について、引き続き協議していく。
委員	野外活動について専門的な取組を実施しているボーイスカウト・ガールスカウトの方たちと連携したらどうか。
児童青少年課長	知識の部分では似たところがあるので、連携できることはないか研究していきたい。
委員	○平成27年度小学生の放課後等居場所事業のモデル実施について モデル実施の学校をみると、特別支援学級のない学校だと思われる。障害がある子の放課後の居場所については、どのように考えているのか。
子どもの居場所づくり担当課長	現在は、学童クラブに入会したり、放課後デイサービスに通ったりしている。放課後子ども教室では、色々な支援が必要な子ども、上級生や友達と一緒に遊ぶことで成長しているということも聞いている。放課後等居場所事業においても、障害児の受入れについて、十分検討しながら進めていく必要があると考えている。
委員	現状では、どれくらいの子どもが利用しているのか。
子どもの居場所づくり担当課長	杉二小学校で行ったプレイベントのミニ運動会には、124名の参加があった。杉一小学校では、夏休み期間中の実施でしたが、106名の登録があった。
教育委員会事務局次長 済美教育センター統括指導主事	(3)「杉並区いじめ防止対策推進基本方針(素案)」について (「資料4 杉並区いじめ防止対策推進基本方針(素案)」について説明)
委員	(質疑・意見等) インターネット等のいじめが多くなったときに、「では、スマートフォンとかインターネットの管理者は誰か」ということになる。小中学生は自分では買えないので、当然親が管理者である。そういう意識が非常に薄い保護者もいるので、保護者が管理しなければならないということを明記することも必要だと思う。
済美教育センター統括指導主事	委員の指摘のとおり、まずは保護者が意識を高く持たないと、スマートフォンや携帯電話の扱い方については徹底されないのでは、その点は配慮していきたいと思う。
委員	まずは保護者が自らスマートフォン、ネット、SNSといったものを勉強しなければいけない。保護者や地域が学べる場というものが必要だと思う。
教育委員会	重要な視点であり、PTA協議会等とも連携して取り組んでいく必要があると考え

事務局次長	ている。
委員	区と携帯電話会社が提携をして、中学生や高校生、小学生を持つ親が携帯電話を買うときに、区で作成した「いじめの相談アプリ」を入れることはできないものか。
済美教育センター統括指導主事	実現できるかどうかは検討していかなければいけないことだと思う。セーフティ教室などの場面を使って、特に中学生や高等学校高学年には推進していきたいと思う。
委員	杉並区では、教育SAT（スクール・アシスト・チーム）という他の自治体にはない取り組みがあるが、どのような組織か。
済美教育センター統括指導主事	いじめ等の学校現場の生活指導上の緊急課題や事件・事故等の安全確保上の緊急対応、中長期的な対応課題を支援するための専門チームで、元校長、スクールソーシャルワーカー、指導主事などで構成している。
委員	これまでに介入したケースはどのようなものがあるか。
済美教育センター統括指導主事	介入したケースは様々ですが、部活動の中でいじめ問題が発生し、なかなか学校が気付かずに親同士でトラブルになってしまったケース。中立の立場で保護者と学校の両方を支援することによって、問題が解決できたということがあった。また、LINEによるいじめ問題が起きたときには、学校に対し、「保護者への連絡はしたか」、「当該児童への指導はしたか」、「いじめを受けてしまった子ども達を守るように教員は動いているか」といったことを確認するよう指示を出すといったことがあった。
委員	妊娠・出産時期のお母さん、お父さんの教育がもっと必要ではないか。子どもの親としての自覚というのは、このあたりでしっかり持つべきではないかと思う。
委員	いじめ防止対策の中でも、「学校の役割はここまで」、「教育SATはこういう役割をする」、「親はこれだけの役割がある」というふうに役割の明確化を図ると、「何を自分がやらなければならないのか」、「地域は何をすれば良いのか」ということが見えてくると思う。
委員	小学生・中学生を対象にスマートフォンなどの所有率を調査する予定はあるか。
済美教育センター統括指導主事	今回の方針を策定するにあたっては、文部科学省などの調査結果を参考にしている。すぐに調査をかけるのは難しいかもしれないが、方針策定にあたっては、根拠に基づいたものとしていく。
委員	保護者としても実態を知りたい。「これだけスマートフォンの普及率が高いんだ」、「これだけ危険な状態なんだ」と認識するきっかけになると思う。
教育委員会事務局次長	素案の説明の中で、最近特にスマートフォンやインターネットを経由したいじめが目立ってきていると話したが、全体を捉えると、決してそればかりではない。子ども達に係る様々な調査については、国や東京都の調査のあり方や全国的な調査結果をいかに使うかを含めて、多面的に考えていきたい。
児童青少年課長	先ほどのスマートフォンの所有状況ですが、5年に1度、青少年実態調査でサンプリング調査を行っている。 小学生は5・6年生で53.5%、中学生になると64.2%に上がります。高校生では95.7%

委員	<p>であった。</p> <p>主に何に使うかという設問では、小学生は「家族との電話」が最も多い。6年生になると「メールのやりとり」に使用する子が増えてくる。中・高校生になると、通話よりもメールが増えてくる。インターネットやSNSなどの利用頻度が段々上がってくるというのがわかる。</p> <p>この調査は5年に1回ではあるが、調査結果を参考にしながら今後の対策に活かしていきたい。</p> <p>杉並区には教育SATという組織があったり、この協議会に教育委員会が同席するなど、他の自治体ではなかなかない。杉並区が子ども達の養育について、本腰を入れて取り組んでいる姿勢だと思う。住民の方々も役所とともに、保護者も叱咤だけでなく、激励もしながらサポートをし、親が駄目なら地域でサポートをする。子ども達にいつも声を掛けられるような地域でありたいと思う。</p> <p>(事務局からの事務連絡) (閉会)</p>
----	---